

刊夕日八十月十

常磐每日新聞

定額一圓五錢 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
廣告料五圓 十二字一圓 一行五圓 拾行十圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社



永遠へ

真、織、雲、山

極樂浄土とは、どういふ處であるか、それを説いたものが觀無量壽經であり、念佛によつて、その極樂に往生し得べき道を開いた教へが、浄土門である。觀無量壽經とは無量壽國を觀照する意味であり、無量壽國とは極樂のことである。

釋尊は王舎大城に於て韋提希夫人を對機として、極樂を觀照すべき方法を十六門に分ちて記された。善導大師の釋に従へば、その一より十三までを定善となし、後の三觀を散善とされた。合せて十六觀法である。

富豪が庭園を買ふたといふても、食ひも呑みも出來るわけはなく、結局は眺めて喜ぶことより外はない。浄土に往生するといふても、それを觀照することが往生する所以に外ならぬ。現身が往くことを條件とすれば死んでからの話になるが、觀照即往生の義とすれば、現身そのまゝ、煙草を吹かしつゝ往生も叶ふわけである。この故に韋提希夫人は、世尊の説法中、第七華座觀にいたりて浄土を見たことあり、善導大師も坐ながらにして浄土を觀照されたところであるが、私たち凡夫は十六觀を皆んな聞いても浄土は拜めず、繰り返へし〜眼をこすつても雲煙萬里、程遠いことである。

因みに定善十三觀といふの定善とは、心を一境に止住せしめた禪定心をもちて修するところの善根をいひ外にはない。

ノート

▼フランネルは洗濯した後最後の濯ぎ水にオリブ油を茶匙一杯加へますと、決してコワクなりません。

散善とは散亂の心のまゝにして修するところの善根の意である。定善は聖者の修する法、散善はわれ〜凡夫に與へられた道であるも凡夫は心散亂するのみにして、露ばかりも善根は修し得られぬ。然るに後の散善三觀の内には、その極重罪惡の劣機さへも往生極樂の道が展べしれてある、その道とは一聲の念佛であると觀經に説かれてある。

斯ほどまで用意周到、念入りに説かれてゐても、私ごととき泥凡夫には、浄土の相は依然として見え、分らぬ。しかし是非なき事と詠歎するは早計なり、分らぬところに無窮の世界があ

るので、分つてしまへば窮まり盡くる世界であつて、無限無窮、無量壽の國といふことは出來ぬ。私たちは終局を知りたいと焦りつゝ、その實、已が壽命の無限無量にして永生ならんことを祈求してゐるのである。而してその永生無量壽とは不可知、不可思議の固より外にはない。

科學は人間、死して灰となることを教へ、佛敎は縁滅して四大、空に還ると説く。その点において兩者の説は一致してゐるも、死して一切が無くなるとは考ふる能はず、そこに極樂をえ

る能は、そこに永遠への思慕がくところ、その思慕とは願求であり、願ひである、佛にも願ひがある、それは衆生

二明日の献立
【朝】豆腐—みそ汁。
【晝】えび—松茸—はぜ—ひき肉—ぎんなん—ほうろくむし。
【晚】夫婦豆腐—薄くす—わさびのわん。

をして、無量壽の國に永遠に生かされてやりたいとの願ひであつて、これを本願といふ。衆生の願求と如来の本願とがピッタリ一致してゐるものなるを知るとき

願求は單なる思慕ではなくして、その生活には歡喜があり、愉快がある。これを『願生の生活』といふ。願生とは字義として、思慕であるも、それは既に満たされたる愉快の生活である。卑近なれども、意中の人に我が意中を運び、その意中の受け入れられ、兩者の意の一なるを知るとき、それは満たされた無上の歡喜ではなからうか。

永遠の浄土を思慕することなき、犬や猫には、あはれなれど『願生の生活』はない。若し人にして、名利の外に生きてゆくべき光りと力としての思慮の世界を有せぬ唯物者流があるならばそは神の恩寵に洩れ、佛の慈悲にはぐれた氣の毒な人たちでしかない。

完

平町風物歌(三)
島田忠夫

○平町俯瞰
いちぢるく洋館ふえし平町
ちかき家にはおしめ乾す見ゆ
○尼子橋
兵戦の模擬ありしあと道つ
きて稲田はあはれ踏まれけるかも
こゝにして見ゆる炭礦の
ぎはしく煙あがれるはうれ
しと云はむ
○二丁目所見
宵ごとに植木ひさげるるか
の爺も焼芋をやく籠樂かむ

難波醫院
平町新川町
電話五〇二番

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

度量衡、計量器、吸入器、酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

運動靴は...

月星長靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サーピス
金四十五錢より
ゴム長靴は...
月星靴を
堅牢優美で
かるいのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より
製靴部
運動具部
大塚支店
平・田町電話七七番
市原醫院
平町田町
電話一四四番

上田科醫院

平町南町
電話二一九番

學生服賣出

倉へ取揃へ
黒豊富に
丈夫な豊富に
温かい通學服を
特價にて提供

小學用(長ズボン付) ¥0.80より
全.....特製品 ¥2.00より
中學用特製品 ¥2.90より

ふかや洋服店

平町南町
電話二九三番

難波醫院

平町新川町
電話五〇二番

川井内科診療所

醫學士 川井重子
女醫 川井安子
電話一八一番

專門 内科一般

内科は何でも診療致します
往診—呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

Advertisement for 'Sanjo' (三井) department store, located at 406 Sanjo-cho, Kawachi-ku, Osaka. Phone: 2606.

滿場一致推舉されて

青沼氏が就任

平町長後任決定す



平町長の後任問題は、大勢青沼太郎氏と決し、十六日午後六時より急施町會を開き出席議員廿九名(關内議員在京欠席)にて投票の結果、當の青沼氏は井上茂作氏に投票し滿場一致廿八票を以つて青沼氏當選直ちに同氏の受諾を得た

新町長の略歴と抱負

先づ第一に財政立直し

新町長青沼太郎氏は平町の舊藩士にて現平第一小學校が舊屋敷跡である。十六才にして平町第二小學校授業生(代用教員)となり明治廿一年福島地方裁判所書記を振り出しに官界に乗り出し若松、平を經廿九年白河分監長(刑務支所長)を

命ぜられ、翌年長野縣警部として初めて警察界に入り、若手縣警務課長、盛岡署長を最後に同縣和賀郡長を経て四十一年本縣白河郡長に轉じ更に耶麻郡長を歴任し大正二年

石城郡長 となり在任五ヶ年非凡の才腕を縦横に揮ひ伊達郡長に轉じ郡制廢止を見越して官界卅年の生活を経て大正七年警務課長

「餘り突然で未だ何んとも考へて居ないが日頃自分の抱懐して居る点から述べれば平町の財界は極度に行詰つて居るから先づ町自治の打開更正には是非共財政の立直しを行

はなければならぬ、水道は完成して自給自足が

町政刷新の上

非常な強味

新町長期待さる

人物閱歴共に申分なし

青沼氏の町長就任に關しては町民が多大の期待を持ち其の手腕を大いに矚目して居るが某有力者は左の如く語つた

「伏見前町長が名町長として縣下に鳴り響いた人である次に後任者の物色に當つては餘程の慎重さを要すべきであつたが難なく青沼氏と

出来るが學校問題はどうしても來年度は増築の必要に迫られて居るので重大な考慮を要する此外公會堂の建設、役場の改築市制實現の前提等々多事多端でやらねばならぬ仕事はいくらでもあるが自分としては圓滿に且つ堅實に立分底力ある町治を期したい決心である

決定を見たのは實に喜ぶべきである、同氏は人物閱歴から全く申分のない人で、その豊富な体験を基として必らず町治の上に偉大な働きを發揮するであらう事は想像に難くない、平町は現在財政の非常な行詰りを來して居るが

同病院は百發百中起死回生の靈力を備へて居るのかも知れぬ、而しそれにしては、平地方から態々此處の門を冠つて白骨と化して歸る人の數の多いのが不思議だ、

南胃病院

あらまし

斯の通り

【その一】

東京の南胃腸病院といへば胃腸患者からは神様の様に信賴されて、少し念入りの胃腸病となれば直ぐにも療して貰へるかの如く信仰されて居る

要するに療らぬ病人は療せぬ迄で寧ろ同病院を全知全能の神様の如く信賴し過ぎた方に罪があるのかも知れぬ、それにしては死期の迫つて居る病人が、それとも助か

債務調停

本日迄に六件

平區裁判所に於ける去る一日から實施された金錢債務調停の申立は本日迄の受理件數六件であると

平職業紹介所報告

回求人部

- △大工徒弟 十八才 尋卒
- △外交易員 四十才 高卒
- △十五圓外分合(平町某新開店)

- △農夫 三十才 尋卒 給料面談(江名町某)
- △學職見習 十五才 仕着 小使(平町某)
- △回求職の部
- △活版工 二十三才 高二 給料面談(平町某)
- △事務員 二十三才 高卒 給料面談(相馬郡某)
- △雜夫 二十九才 尋卒 給料面談(平町某)
- △看護婦見習 十七才 看護婦學校出 給料面談(平町某)

町民諸君に御挨拶

私儀大正八年以來職を當町に奉じ町民諸君の深厚なる御援助を忝し候處追々老境に入り且つ健康相勝れず候に付上水道擴張工事竣成を期とし今回退職致候爰に乍略儀以紙上御挨拶申上候敬具

昭和七年十月十四日

伏見彦衛

にどうなるか等後々の事まで考へる暇のないのも無理はない

現に今度惜しまるゝ身を他界した山崎與三郎氏夫人たけ子刀自にしても其通り、病院では終始樂觀論で大丈夫の一点張り、若主人の清三氏が足部のムクミを見て容易ならずと心配し主治醫の清水醫師に上京を乞ふて診察を受けた處、同醫師は「危険状態に陥つて、二三日が峠である」と斷言を下

したに對し病院側では「イヤ五六日はさしたる變りがないから」といふ、此處で感心させられるのは南胃腸病専門だけに腹部を一寸押して診た丈で足部の方等へはレンジ眼もやらない、これで事實五六日變りがないかつたなら、流石院長さんは眼が高いとなるのだらうが、如何せん清水醫師の豫言が適中して山崎夫人は三日後に逝去せられた(續)

平年作より 幾分不良に

昨今の天候が

香しからぬ影響

石城郡下稻作の刈取期に入った最近降雨又は曇天続きで稲の乾燥が充分でない結果稲落が出来ず殊に十六日の強雨に冠水並に稲の倒れるものが多く現在では平年作より稍不良の豫想である

新記録續出

昨日の模型機大會

人賞氏名

既報本社後援いづみや玩具店主催石城郡下第四回模型飛行機競技大會は昨日平第三小學校に於て開催された

- △A組(一等)二分胡摩澤志 賀幸夫(二等)一分十三秒 杉平平館重雄(三等)一分十二秒
- △B組(一等)平齊藤義作 (二等)好間加藤幸一(三等)平大谷次男
- △C組(一等)内郷鈴木榮 (二等)湯本遠藤文彌(三等)内郷高橋強

四倉市閉場

取引買数は減少したが

代金は激増……

既報四倉市市場秋蠶は去る十六日の取引百二貫、最高五十圓二十錢、最低三十圓五十二錢、馴四十圓三十錢を以つて閉場されたが本年秋蠶の取引買数は昨年二十年秋の二萬六千八百七十貫と買数は二萬六千八百七十二貫五百六十多、この代金は二萬六千八百九十九圓三十三錢で前年同期の買數三萬三千五百四十貫八百四十

内郷村の 武道大會

武道大會

石城郡内郷村及び磐城炭礦合同主催の内郷武道大會は昨十七日同村武徳殿に行はれ参加選手百餘名に達し非常な盛會を見たが當日の成績左の如くである

- △A組(一等)二分胡摩澤志 賀幸夫(二等)一分十三秒 杉平平館重雄(三等)一分十二秒
- △B組(一等)平齊藤義作 (二等)好間加藤幸一(三等)平大谷次男
- △C組(一等)内郷鈴木榮 (二等)湯本遠藤文彌(三等)内郷高橋強

明日の天気
十九日
今夜も明日も西の風晴曇つた

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「村まつり」名古屋お人形團
- 後七、三〇 講演「私學の興隆に就て」早稲田大學 總長法學博士田中穂積
- 後八、〇〇 獨唱武岡鶴代ピアノ伴奏柳原直
- 後八、三〇 三曲「夕顔」近江八景「筆大沼多美井」三絃佐々木佐喜豊 尺八木村弘
- 後九、〇〇 掛合嘶「狸は語る」狸家連
- 後九、三〇(満洲より) 全國ニュース 氣象通報 番組報告

平第三校優勝す

昨日の磐女運動會

既報磐城高等女學校秋季大運動會は昨日午前七時より同校グラウンドに於て開催絶好の運動日和に押掛けた觀衆五千餘名にて陸上競技にマスゲームに一般觀衆は陶酔し午後二時當日の呼物たる郡下各小學校女兒童百米及び四百米リレーの對抗競技に移り白熱戦を演じ戦績左の如く平第三小學校が百米四百米リレー共に優勝し榮ある優勝額及大塚運動具店寄贈の優勝杯を獲得した

- △百米 高野弘子(二等)平第二中 村春子(三等)勿來小峯
- △四百米リレー 一、小學校にては本日午前十一時より石城郡赤井村出身前騎兵第二聯隊長若松大佐の講演會を催した

若松大佐講演

一、小學校にては本日午前十一時より石城郡赤井村出身前騎兵第二聯隊長若松大佐の講演會を催した

米穀生産費調査

草野村農家の集計表

石城郡農會では米穀生産費調査の爲め今回縣と協力し來月二日郡下最高の米産村たる草野村役場に於いて同村農家に集計表其他關係書類を持參せしめ是れが調査を行ふ事になつた

幼駒育成

馬匹の改良に

石城郡上下小川村では今回馬匹の改良殊に幼駒育成の爲め近く上小川村中戸地

明日の部

- 前六、三〇 秋季國文學講座「奥の細道」抜抄(二)萩原井泉水
- 後九、一〇 料理献立「酢松茸、山家井、佐藤つぎ
- 前一〇、三〇 家庭講座「ラデオオーケストラ」指揮瀨戸口藤吉
- 後一、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」立教對帝大(第二回戦)明治神宮外苑球場より中継
- 後二、〇〇 家庭大學講座
- 子供の心「子供の習癖の診斷」帝大助教青木誠四郎
- 後六、〇〇 子供の時間「お話」紙「深田繁美
- 後七、三〇 講演「建築と照明」工學博士武田五一
- 後八、〇〇 浪花節 敷島大藏
- 後八、三〇 映畫物語「薩摩飛脚」(東海篇)伍東宏郎 伴奏キネマパレス和洋樂團
- 後九、〇〇 義太夫「三十三所觀音靈現記」淨瑠璃竹本清系三味線豊澤仙平

来る卅日は

平町各勅語記念日 小學校にては来る三十日が教育勅語御下賜記念日に相當するので勅語奉讀式を舉行すると

取消 本紙十三日付夕刊「毆打された兒童の父傷害罪で教師を告訴」云々の記事は事實は全く相違し居るを以て同記事全文を取消す

平青年

對抗軟球

平青年團主催各分團對抗第二回軟式野球戦は昨十七日午前九時より平第一小學校庭に於いて昨年の優勝者南町チームを初め参加十一組により大接戦を行つたが當日は一二回戦のみで準決勝決勝戦は来る廿二日正午より第一校庭に行はれると當日の成績左の如くである

箕輪の運動會

石城郡箕輪村第二小學校では去る十七日午前九時より同校庭に於いて小學生、男女青年團、青年訓練所生聯合の秋季運動會を催した

- 第一回戦 白銀町5—3 新川町 南町、栗権、久保町、紺屋町 4 A 3 田町
- 第二回戦 五丁目8—5 胡摩澤 三丁目2 A 1—1 丁目、紺屋町 0—0 鍛冶町、南町 5 A 1 白銀町



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演 近藤紫雲畫

第百七十七席 平手造酒

果し合の證文

平手造酒は老婆が引いて来た犬に團子を與へて藝をさせ

造「感心だな、人でありながら無藝の者もある、それに引替へ畜生でありながらこれ程の藝を覺えるとは偉いものだ」

婆「白犬は人間に近いと申しますけれど、ございませよ、白や旦那様がお團子を買つて下さつた能くお禮を申しておくれ」

これが犬に判つたか前脚を折つて頭をさげた、造酒はそれを見て

造「賢い奴だ、畜生ですら禮儀を存じ居るに彼す處に居る武家三人は盃洗へ注ぎ置きし酒を塵にて汚しなから一言の會釋も致さぬとは不埒な奴だな、しかも雪駄に附着いたした砂をこれへ入れ居つた、四民の上に立つ武士にあるまじき所業、憎い奴めが……」

とその團子を取るとバツと投げ付けた、この三人は飯岡の助五郎の許に居る者で高島郷太夫、志摩一角、鷹取運平とて何れも浪人、今日は鹿島の祭禮に就き切五郎が賭場を敷いた故、それ

へ出頭いたし晝食をいたさうとこの駿河屋に來たもの今平手の投げた團子が高島郷太夫の面にビンヤリと當つた、イヤ郷太夫驚いて手拭でそれを拭き取つたが顔中餓が着いてゐる、アツた

無禮と云ふ事を存じ居るか存じ居るなら先づおれに詫ろ、これよく聞け、先刻貴様達は表からこれへ入り來りおれの前を通り乍ら一言の會釋もいたさず刺へそれへ上る際に雪駄に附きし泥土を拂ひそれがこれなる盃杯にくみ置きし酒に入つたぞ、何故その節粗忽致したと詫ぬ、無禮者とは其の方共の事であらう、但しおれの申す事が道理に背き居るかヤイこの馬鹿者ツ」

イヤ三人はいよゝゝ怒つて無禮なり此奴と刀を取つて立ち上つた、駿河屋の主



る事だらうと他の客は吃驚した、郷太夫はカツと怒り郷「ヤイこの無禮者ツ、顔に物を投げ付けたは酒の上にて致せしとは云はせぬぞこの不埒者め……」

これを聞いた平手はアハハ、と笑ひ造「控へろ此奴、貴様等は

物が團子故怪儀も致さぬが小柄であればその儘死せし事であらうさて、未熟な奴だ、イヤ主人心配いたすなこゝな馬鹿野郎は斬つて了つた方が宜しい、世に置くはムダだ、さア三人の奴等勝負いたし呉れる外へ出ろ」

郷「逃げるな此奴、拙者を何と思ふ關東一の俠客飯岡助五郎の許に居る高島郷太夫だぞ、秋山要介取立ての者である」

造「ア、さうか、秋山は神影流の達人だその者の弟子か、見た所刀の抜き法も知らぬやうであるが後に居る二人も飯岡の許に食客いたし居るか、よし、序に斬つてやる」

これを聞くと志摩一角、鷹取運平は大に怒り勝負いたす覺悟しろと云ひながらヒラリと飛降りた

造「待て、騒ぐな、死に急ぎをするな、再び出られぬ人間界さう早く立退くにも及ぶまい、そこで後で苦情のなきやう尋常に勝負致すと云ふ證文を取交しさうして死生を争ふであらう討つ討たれるは天に任して置く事に致す、どうだ證書を出すか」

郷「ウム、望みに任せて認め遣はす」

造「よし、おれが雛形を出すぞ、オイヤ駿河屋の主人ちよつと硯を貸て呉れ」

主「大變な事になりましたな」

どれ書いて遣はす」筆を執つて鼻紙へサラサラと書き名の下に書判をいたし造「さアこの通り書け」三人が見ると武士道の意氣地に依り勝負いたし候上は落命任候とも一切差構へはなく候後日の爲證書依つて件の如しとあります

Advertisement for '看護婦急派' (Nurse Emergency) and '平看護婦會' (Hei Nanshufu Kai). Includes contact info for 川崎巡回文庫 (Kawasaki Itun Bunko) and 自由の雑誌 (Jiyu no Zasshi).

Large advertisement for '耳鼻咽喉科専門' (Specialty in Otorhinolaryngology) by 大和田醫院 (Ohtani Hospital). Features '新製品' (New Product) 'うなぎの御用命は' (Unagi no Gojimonme wa) and 'うなぎの奴' (Unagi no Neko). Includes details about coffee products and a coupon for '大勝園コーヒー部' (Daisshoen Coffee Dept.).